

# 公開講座通信

Monthly letter from insource

# 9 September

## 「疑似リカレント教育」でマネジメントを学ぶ

### マネジメントを知らないまま管理職に

これまでの長期雇用を前提とした労働環境においては、職歴の長さやプレイヤーとしての実績が評価された結果、社内での昇級・昇格を重ね、管理職になるケースが一般的でした。管理職に昇格すると、多くの企業では、管理職としての心構えや必要なスキルを学ぶ「管理職研修」を実施されます。そこで、マネジメントのいろはを取得させることになるのですが、数日間の研修で身につけられることには限りがあります。また、管理職になったとはいえ、実際の業務は昨日までと大きくは変わらないわけでもなく、せっかく学んだマネジメントスキルも、当面活かす機会がない、という人も少なくありませんでした。

### プレイヤーの延長線上にマネージャーはいない？

しかし、わが国でもは徐々にミドルを取り巻く環境は変化し始めており、年功ではなく、マネジメント能力のある人材を管理職に登用しようとする経営者が増えてきています。つまり、優秀なプレイヤーとは別の、「プロのマネージャー」を求めているということであり、「これまで多大な貢献をしてきてくれたから」とか「うちの会社のことをよく分かっているから」というだけで管理職に推されることは、今後難しくなってくるかもしれません。

### マネジメントはどこで学ぶのか？

人生100年時代と言われる今、「リカレント教育」が話題となっています。このリカレント教育は欧米では一般的なものとなっており、一定期間就業した後、会社を辞めて再び学校に通いながら専門スキルを身につける人がすでに大勢います。人生設計の中で意図的に「復学期間」を設け、さらなるキャリアアップやキャリアチェンジを図る人も珍しくはありません。特に経営にかかわるような上級の管理職を志す人にとっては、ビジネススクールなどで体系的に経営学(マネジメント)を学ぶことがキャリア形成上、半ば必須となっている風潮すらあります。ただ、わが国においては、今の仕事をいったん辞めて、再び「学びの場」に戻ることにについてはまだまだハードルが高く、すぐに一般的になるとは考えにくいでしょう。

### まずは異業種交流型の外部セミナーから

わが国でも、働きながらMBAが取得できることを売りにしたビジネススクールがいくつかありますが、当然ながら、終業後や休日を費やしての勉強となるため、その資格取得までの道のりはハードなものとなります。必ずしも資格が必要なわけではなく、マネージャーとしての必要な考え方やスキルを、もう少し気軽に習得したい、というのであれば、オープンセミナー型のマネジメント研修を受講するというのも一つの手だと考えます。集合研修では、どうしても受け身の姿勢になりがちですが、他社からの参加者と一緒に受講することによって、学生と同じ様な「主体的な学び」を体験することができます。

「学生同士」が切磋琢磨し、「プロのマネージャー」としての意識変革をもたらす場として活用してみてもいいかもしれません。

PICK  
UP

### おすすめ研修のご紹介

#### ・変革リーダー研修～人数を増やさず今のメンバーで変革を実現する

事業環境が想像以上のスピードで変化する現代において、組織を成長させるリーダーには「5年後、10年後の世界は？」「自分が経営者なら？」という高い目線が求められます。そこで本研修では、変革を「5年後、10年後の将来を見据え、組織に有用な新しいことを実現すること」と定義し、変革の具体的な進め方をお伝えします。

#### ・新任管理職研修～自信を持ってマネジメントを始める編（2日間）

新任管理職としての仕事の始め方を具体的に知り、役割を遂行するために必要なスキルを習得し、3ヶ月後に大きな成果を発揮することを目的とします。

#### ・次世代リーダー研修～安定力・思考力・指導力を身に付ける

本研修では、リーダーとして求められている役割を考え、今後の目標ををかけていただきます。リーダーとして課題と捉えていることの多いスキルを習得することで、自信に繋げていただけます。